

(回答公開日：令和4年5月18日)

現地説明会（令和4年5月12日実施）における質疑応答一覧	
質問内容	回答内容
1	<p>小学校の現在の正門は、改築後どうなるのですか。使わなくなるのですか。</p> <p>正門は新しい校舎側に移動しますが、現在の正門もグラウンドへのアプローチとして活用していく予定です。</p>
2	<p>学校の敷地内を通っている通路を敷地外周部に付け替えると説明がありましたが、もう少し詳しく教えてください。</p> <p>現在、校舎とグラウンドの間にある通路は住民が自由に往来できますが、学校の管理上、敷地内の出入りは制限する必要があります。ただし、地域住民の動線を確保するため、現在のグラウンドの西側の縁に沿って歩行者が往来できる程度の幅で動線を付け替える想定をしています。基本計画書にも2m程度の通路を示しています。</p>
3	<p>石垣が立派だと思えますが何か経緯がありますか。</p> <p>正確には分かりませんが、西浦は昔は石の産地でしたのでそれが関係しているのかもしれませんが。</p>
4	<p>西浦小学校の外国人の児童は、どの程度いますか。</p> <p>ほとんどいません。</p>
5	<p>敷地の高低差の分かる資料は提示していただけますか。</p> <p>敷地の高低差の測量資料はありません。なお、「地区個別計画に基づく基本計画書（西浦地区）」には、高低差を示しているところがありますので、それを参考にして下さい。</p>

現地説明会（令和4年5月12日実施）における質疑応答一覧		
	質問内容	回答内容
6	西浦小学校の裏手にある崖の擁壁は、愛知県建築基準条例の中のがけに関する条例（第8条）をクリアできる擁壁ですか。	東側の崖は土砂災害警戒区域に指定されているが、擁壁により崩壊土量ゼロと試算されています。なお、基本計画書では崖がある側はグラウンドにする計画としており、現在グラウンドがある側に建物を配置することで崖の影響がないように計画しています。

（注）西浦地区の現地説明会においていただいた質問のうち、技術提案書に関することや業務委託に関することは塩津地区にも共通する内容になりますので、質疑応答の内容は別に示します。